授業探訪　言語系科目〈日本手話〉

立教大学における日本手話のあゆみ

全学共通科目兼任講師　細野 昌子

はじめに

日本手話は、2010年度に全学共通カリキュラム（現在は全学共通科目）言語自由科目として開講された。当時、日本の大学では福祉系授業の一環としての手話教育は多いが、言語科目として日本手話を取り入れている大学は限られていた[1)]。また一般的に日本音声語の文法、語順に即して手話単語を対応させる日本語対応手話の指導は多いが、日本手話を学べる場は今でも多くはない。手話を言語として最初に研究したのは、1960年、米国の言語学者ストーキー[a)]であるが、実際に言語として認知されたのは、世界的には国連総会において採択された障害者権利条約に「手話が言語である」と明記された2006年[2)]で、日本では改正障害者基本法で「言語に手話を含む」と規定された2011年である。よって立教大学では、法律上で言語として認知される前に言語科目として日本手話が開講されたことになる。

立教大学の日本手話科目

日本手話はレベル1~4に分けられた学期制、週1回の2年コースである。開講年度は池袋・新座キャンパス共に日本手話1、2でスタートし、2011年度からは年間で日本手話1～4がどちらかのキャンパスで受講可能な形で運用している。池袋は金曜日、新座は火曜日開講で同時受講も可能である。

授業は「実技」と「コラム」に分かれる。「実技」はネイティブサイナー（ろう者）の講師による音声なしの70分指導となる。講師は絵やイラストなど視覚的教材でイメージを伝えながらインタラクティブに指導する。視覚で情報を得ることに慣れていない受講生にとってはまさに異文化体験の第一歩となる。また、大学の「手話を学ぶことは異文化理解の大きな扉を開くことにつながる」との考えのもと、コラムの時間をほぼ毎回設け、ろう者の講師が言語の背景にある文化を紹介する。15分と時間が限られるので配布資料で情報を補っている。コラムから得た知識はレポート課題（評価対象）として学生自身が理解を深める。

開講時からチームティーチング形式を採り、2012年度からは池袋は野崎静枝（兼任講師、ろう者）・細野（聴者）、新座は北川光子（兼任講師、聴者）・野崎ペアが担当してきた。開講当時の志「受講生が手話を通して自分の人生に新しい見方を構築する」を重

視し、授業前後や学期終了時ごとのミーティングで内容や教材の検討、開発を重ね今に到る。聴者の兼任講師はコラムや必要に応じて通訳を行うが、学生の読み取り時間を増やすため、学生の状況に合わせ出来るだけ早い時期にクラス向けの通訳から必要な学生限定の通訳に変更していく。

日本手話１～４を通して指導は基本的に導入した語彙を使ったYes／No、5W1H-question形式でインタラクティブに進める。さらにペアワークやグループワークなどアクティブラーニングを取り入れている。質問以外は学生の自主性に任せ、訂正は最小限にとどめ自然な会話を楽しむ事を重視している。また毎回コメントシートに質問や感想を書いてもらい、その後に編集版を配布し回答やクラスの情報を共有している。

手話学習は「見る」ことから始まるので基本的にテキストは使用せず、復習用のレジュメを授業の後に配布する。また開講時からメディアセンターの協力の下、V-Campus Cyber Learning（2015年度で終了）で復習用動画を配信し学習効果を上げてきた。2016年度からのオンライン授業支援システムであるBlackboard配信移行に伴いiPhoneと Androidからアクセスが可能となり動画の活用範囲が広がった。なお、この動画はオンラインで学内向けに公開している。

指導内容と学習プロセス

日本手話１では「自己紹介、色、家族、時間、住所・出身、スポーツ、通学、食べ物」のテーマで新出語彙を導入し、挨拶や自己紹介ができるレベルおよび全国手話検定試験５級合格レベルを目指す。視覚的言語である手話と初めて出会う学生は、聴覚中心のコミュニケーションに慣れているので新鮮な感覚で新たな言語に取り組むことになる。コラムでは「ろう者の文化・生活・スポーツ」と題し情報を提供する。

日本手話２は「職業、交通機関、旅行・都道府県、病気、住居、行事、国名・言語、動物」のテーマで新出語彙を導入し、日常生活の身近な体験やイベントについて会話ができるレベルおよび全国手話検定試験４級合格レベルを目指す。検定試験語彙リストからの語彙テストやDVD教材による読み取り練習も日本手話２、３、４で行う。理解語彙を使用語彙に発展させるため、ペアワークやグループワークでアウトプットを多くして「旅行計画」や「クリスマス会」などのイベントでグループ発表も実施する。コラムでは「ろう者の職業」をテーマに概説や実在する国内外のろう者を紹介し、ろう者像を就労の観点から考える。日本手話１～４では、ゲストスピーカーを迎えコラムと関連したテーマで講演を実施しているが、日本手話２でも今まで弁護士、JAXA職員、就労支援施設長、プロゴルファーなどさまざまな職場で活躍するろう者からの体験談を聞く機会を設けてきた。

日本手話１、２では語彙力アップと手話独特の音韻変化に慣れるために時間を多く割くが、日本手話３では手話文法「NMS（Non-Manual Signals、非手指記号）[b) 3)]、手話口型、非手指副詞、接続詞、モダリティー、構文」を学び、ろう者が使う自然な手話の

授業風景１（日本手話におけるCL（Classifier）の練習）

習得を目指す。また全国手話検定試験３級合格レベルも目指す。本格的な文法学習で更なるレベルアップや接続詞を使った複文に取り組むためペアワークやグループワークがより活発になり、クラス内の繋がりが強固になる。コラムでは「ろう者の歴史」、「ろう教育」、「ろう者の芸術」をテーマに話を展開する。聴覚障害起因の情報障害を抱えるろう者が運動によって社会的権利を勝ち取ってきた歴史や、口話法[c)]というろう児には向かない教育方法により学習が不充分になっているろう教育の問題[4)]についても学ぶ。またデフアートやデフポエムなど芸術性にも触れる。コラムから知識を得るにつれ、技術を磨き実生活で役立てたい気持ちが芽生えて手話学習にも勢いが増す。受講生の学習に「実技」と「コラム」の相乗効果が見受けられる。

日本手話４は手話特有の慣用句、CL（Classifier）[d) 3)]、ロールシフト[e) 5)]を生かし自由に自己表現ができるレベルおよび全国手話検定試験２級合格レベルを目指す。前述の手話文法項目の習得には訓練が必要だが、受講生は柔軟に学習を進め、最終的には多くが習得し「絵本の手話読み聞かせ」や「ディスカッション」のイベントで活用できるレベルになる。コラムでは「言語としての手話」、「ろう者に関わる法律・社会福祉制度」について学び、２年間で積み上げてきたコラムの知識からそれぞれの“ろう者像”を創り上げる。

学生の学習状況と効果

日本手話１、２は定員25名、３、４は定員20名である。１、２は履修希望が多く抽選になることもあるが、３、４（１、２履修が基準）では９人～20人と年によって履修者数にばらつきがある。学期末試験は、読み取り（語彙・短文・会話文）および日本手話１、

授業風景２

２、３では90秒、４では２分以内の学習内容を反映した表現で行う。

日本手話１の受講動機は［出会い（過去や大学でのろう者や手話・本やTVドラマ）／言語や異文化としての興味／自身が難聴／将来の仕事に役立てたい／ろう者を助けたい］など毎年さまざまだが、学期終了時には［単語を覚えたいと気軽に履修したが、４か月で会話や90秒のスピーチができるようになった／手話は必ず目を合わせて会話するのでコミュニケーションし易い／普段の会話にも自然に表情やジェスチャーが出るようになった／最初は目が疲れたが、ろう者の表現力の豊かさに魅了された／この授業でろう者の気持ちや文化を初めて理解し、ろう学生との誤解が解消された］などの感想が多く寄せられる。

日本手話１から２への継続率は平均66％で80％の学期もある。日本手話２の受講動機は［１で日本手話の奥深さを感じ自分の表現が豊かになり読み取り力も上がり、さらに上達したい／ろう者と話したい］などステップアップに希望を燃やし、学期終了時のコメント［親戚のろう者と手話で会話が進んだ／バイト先で手話で話しろう者に喜ばれた／成人式の手話通訳が読み取れた／コラムで情報保障があれば聴者と同様にろう者も社会で活躍出来ると分かり、自分も将来職場で出会ったら助けになりたい／３月から就活開始だが手話の学習を始めて世界観や心の持ちようが変化した］からは希望を自信に変え技術的にも精神的にも成長した様子が分かる。

日本手話２から３への継続率は平均64％で100％の年もある。目標として［通訳なしでの読み取り／手話を手話で理解する／ろう者の速い手話や指文字の読み取り／接続詞を使った複文の使いこなし／自主学習の場の開拓／手話を身に付けた自分の変化の把握／卒論（手話をテーマ）の充実］などが挙がり、学期終了時の感想では［バイト先の子供

達に意識的にさまざまな表情をした／人とのコミュニケーション方法の多様性を感じた／講師の表情だけで内容が分かるようになった／文法にのっとり自然な日本手話表現に近づけた／日常でも手話に変換する習慣が身に付いた／読み取り力がアップした／コラム「ろう者と教育」に刺激を受けろう児ともっと関わりたくなった］などが挙がった。

日本手話３から４への継続率は平均78％だが、日本手話１から継続し２年間クラスメイトとなる学生もいるのでアットホームなクラスとなる。受講動機は［手話が楽しくて仕方がない／３で苦しんだがまだまだ学びたい／1～4の集大成としたい／自分の意見を正しい文法、表現で自信をもって伝えたい／ろう者ともっと豊かなコミュニケーションがしたい／通訳なしで読み取りたい／教職現場でろう児に対応したい／就職先にろう者がいるのでレベルアップしたい］などが挙がり、学期終了時の感想では［1～4を通してろう者から手話を学び文化も理解する事で、しょうがい者への偏見が消え新たな視点を発見できた。貴重な経験に感謝している／軽い気持ちで１を受講し４まで続けた。楽しい思い出が一杯で未知だった手話の世界を今では身近に感じる。出会ったろう者全員の明るさとパワーに魅力を感じている。今後も学習を継続したい／手話文法にのっとって表現するのは難しいが楽しく学び表情も豊かになった／最後の学年に新しい言語に挑戦し“当たって砕けろ”の精神を学んだ／未知の世界に入るのは勇気がいるが、手話は面白いしコミュニケーション手段の一つとして有効な言語である／手話を勉強出来たことは財産になった。就職先でも手話を活かせるよう頑張る］などの記述があった。

まとめ

母語とは異なった言語として手話に出会い早い時期に手話の特徴に気付き、ペアワークやグループワークで共助の精神を活かし学習の困難を乗り越え、自分の枠を超えたコミュニケーション能力を育んでいく受講生の姿勢が印象深い。手話検定試験を技術獲得の指標とする学生も毎年いる。主に３、４級合格者が多いが今までに１級合格者も２名出ている。日本手話の授業で培ったコミュニケーション能力は将来必要な場面で発揮されていくことであろう。

受講生は、コラムを通して今まで生きてきた聴者の文化を再認識しながら、ろう文化という異文化の視点に思いを巡らせる。その経験をクラスでさまざまな立場の学生が共有し、学び合い、視野が広がる。また聞こえる学生だけではなく、軽度難聴で不安を抱える学生も手話に出会い改めて自身のアイデンティティを模索する。履修生やアシスタントとして授業に参加するろう学生にとっても、自分の言語および文化的な内省の場となっている。

これらの経験は、受講生一人一人が今後新たな文化や言語に出会った時に柔軟性という形でフィードバックされることと期待している。「受講生が手話を通して自分の人生に新しい見方を構築する」という開講当時の志を胸に今後も受講生を迎えたい。

ほその　まさこ

注

a）　ウィリアム ストーキー（1919-2000）：1960年に論考 “Sign Language Structure”「手話の構造」を発表。「手話は音声言語とは異なった言語体系を有し［手形、位置、動き］を音韻の3要素」と定義した。

b）　NMS（非手指記号）: 手話は手や指の手指動作だけでなく、非手指記号（Non-Manual Signals）と呼ばれる顔の部位（視線、眉、頬、口、舌、首の傾き・振り、あごの方向など）が重要な文法要素となる。

c）　口話法：ろう児の教育方法の一つ。指導（言語指導を含む）とコミュニケーションを音声言語で行おうとするもの。話し手の唇や顔面筋肉の動きから話された言葉を理解する読話、発音・発話、残存聴力の活用による聴き取りを手段とする。

d）　CL（Classifier）：手話のCLは、物の大きさや形、材質などを図像的に表現する方法。

e）　ロールシフト：一人の話者が現在の話者以外の他者（過去／未来の話者を含む）の役割を演じ分けること。

参考文献：

1）平英司、手話学研究、第20巻、P3~P4、日本手話学会、2011.
2）玉村公二彦、中村尚子、障害者権利条約と教育、全障研出版、2008.
3）神田和幸、基礎から学ぶ手話学、福村出版、2009.
4）脇中起余子、聴覚障害教育これまでとこれから、北大路書房、2009.
5）岡典栄、赤堀仁美、日本手話のしくみ、大修館書店、2011.

Syllabus

日本手話１

授業計画 Course Schedule

1. はじめに／名前・手話会話のマナー
2. 自己紹介・色／コラム・ろう者の文化1
3. 家族・略歴／コラム・ろう者の文化2
4. 時間・時制／コラム・ろう者の文化3
5. イベント-1：誕生会
6. 住所・出身／コラム・ろう者の生活1
7. 生活・スポーツ／コラム・ろう者の生活2
8. 通学・乗り物／コラム・ろう者の生活3
9. イベント-2：大学生活
10. 食べ物・食習慣／コラム・ろう者とスポーツ1
11. キャンパス案内／コラム・ろう者とスポーツ2
12. イベント-3：キャンパス案内応用
13. 春学期の復習／自由会話練習
14. 最終テスト／まとめ

日本手話２

授業計画 Course Schedule

1. はじめに／入門編レベルの復習
2. 職業／コラム・ろう者と職業1
3. 自動車・交通／コラム・ろう者と職業2
4. 旅行・都道府県／コラム・ろう者と職業3
5. イベント-1：旅行計画
6. 病気・怪我／コラム・日本のろう者1
7. 住まい・間取り／コラム・日本のろう者2
8. 行事・嗜好品／コラム・日本のろう者3
9. イベント-2：理想の暮らし
10. 国名・言語／コラム・世界のろう者1
11. 動物・飼育／コラム・世界のろう者2
12. イベント-3：クリスマス会
13. 秋学期の復習／自由会話練習
14. 最終テスト／まとめ

Syllabus

日本手話３

授業計画 Course Schedule

1. はじめに／初級編レベルの復習
2. 日本手話・対応手話の違い
3. 疑問文／コラム・ろう者と歴史1
4. 手話口型／コラム・ろう者と歴史2
5. イベント-1：表現力アップゲーム
6. 非手指副詞～様態副詞～／コラム・ろう者と教育1
7. 非手指副詞～程度副詞～・敬語／コラム・ろう者と教育2
8. 接続詞／コラム・ろう者と芸術1
9. イベント-2：翻訳挑戦ゲーム
10. モダリティ／コラム・ろう者と芸術2
11. 接続詞的用法／コラム・ろう者と芸術3
12. イベント-3：ミニ寸劇
13. 春学期の復習／自由会話練習
14. 最終テスト／まとめ

日本手話４

授業計画 Course Schedule

1. はじめに／中級編レベルの復習
2. 慣用句／コラム・手話という言語1
3. イベント-1：慣用句を使った寸劇
4. CL1／コラム・手話という言語2
5. CL2／コラム・ろう者と法律1
6. イベント-2：CLコンテスト
7. ロールシフト1／コラム・ろう者と法律2
8. ロールシフト2／コラム・福祉制度
9. イベント-3：手話語り
10. 手話による絵本読み聞かせ1／コラム・21世紀のろう者像
11. イベント-4：手話による絵本読み聞かせ
12. ディスカッション
13. 秋学期の復習／自由会話練習
14. 最終テスト／まとめ